

# 世界史探究

## 第 1 問

モンゴル帝国の時代にユーラシアにおいて広域交流が活性化し、これを先駆けとして、15 世紀末からは「世界の一体化」と呼ばれる地球規模の交流が開始された。この動きのなかで、インドではイスラーム教が浸透し、またヨーロッパ勢力が到来してアジア進出の起点とした。

このことに関連する以下の 2 つの設問に答えよ。解答は、解答欄(イ)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)(2)の番号を付して記せ。

問(1) モンゴル帝国解体後の広域交流の展開を踏まえてムガル帝国の成立に触れた上で、ムガル帝国の宗教政策や文化について、10 行以内で記述せよ。その際、以下の 4 つの語句を必ず一度は用い、その語句に下線を付すこと。

アウラングゼーブ    タージ=マハル    ティムール    ペルシア語

問(2) 「世界の一体化」の進展を踏まえて、15 世紀末から 17 世紀中頃までのポルトガルのアジア進出について、10 行以内で記述せよ。その際、以下の 4 つの語句を必ず一度は用い、その語句に下線を付すこと。

ザビエル    トルデシリャス条約    マカオ    マラッカ王国

## 第 2 問

地球環境や天然資源は人類の経済活動や社会制度の変化と密接に関係しており、人類の歴史を考える上で重要な要素の一つである。このことに関連する以下の3つの設問に答えよ。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記せ。

問(1) 次の文章を読み、このことに関する以下の(a)・(b)・(c)の問いに、冒頭に(a)・(b)・(c)を付して答えよ。

図



出典：ディジョン市立図書館 手稿本番号 170, 59 葉表

A：この図は、12世紀初め頃に、現在のフランスのブルゴーニュ地方にある、とある修道院で作成された手書きの冊子本に見られる装飾の写真です。

B：描かれているのは修道士でしょうか？ 彼らは何をしているのでしょうか？

A：良い質問ですね。考えてみましょう。この描写からは、この修道院を中心に形成された修道会における、冊子本作成当時の修道士たちのあるべき姿の一つを読み取ることができるのです。

B：彼らは植物の上に立っているように見えます。左の人は斧を持っていますね。キリスト教とは関係がなさそうですが…。

A：そうですね。しかしこうした活動も、彼らの修道生活にとっては大きな意味を持ったのです。

(a) この描写に見られる修道士たちの活動を、話題になっている修道会の名称を挙げながら、2行以内で記せ。

(b) (a)で扱った修道士たちの活動の背景となった当時のヨーロッパの気候傾向を述べた上で、その傾向に変化が生じた時期と、その変化がヨーロッパにもたらした影響を、3行以内で記せ。

(c) この描写を含む冊子本は、教皇グレゴリウス1世の著作を収録している。この教皇の事績を説明した文として最も適当なものを、次のア～エのうちから1つ選び、その記号を記せ。

ア ゲルマン諸族へのキリスト教布教を進めた。

イ イコンの利用をめぐり、ビザンツ皇帝レオン3世と対立した。

ウ フランク王カールに皇帝の冠を与えた。

エ 聖職叙任の問題などをめぐり、ハインリヒ4世と対立した。

問(2) 自然環境は人間の移動を条件づけてきた。それを知る手がかりを与えてくれる重要な史料の一つとして、旅行記が挙げられる。次の資料は、14世紀に世界の各地を旅し、旅行記を残したことで知られるモロッコ出身のウラマーが、旅の途中、海路でアラビア半島南東部のザファーリを訪れた時の記録である。このことに関する以下の(a)・(b)・(c)の問いに、冒頭に(a)・(b)・(c)を付して答えよ。

### 資料

ココヤシの実は、人間の頭にその形が似ている。つまり、その実には二つの眼と一つの口が付いており、(中略)その表面は毛髪に似た繊維に覆われている。ザファーリの人たちは、その繊維で縄紐を作って、鉄釘の代わりにそれを使って船板を縫い合わせる。また、その繊維から船舶用の太綱を作る。

- (a) このウラマーの名前を記せ。
- (b) 資料中の下線部に関連して、ココヤシの繊維を用いて作られていた帆船の名称を挙げながら、その船を用いて行われた海上交易について、2行以内で記せ。
- (c) 当時のアラビア半島西部には、カイロを拠点とする王朝の影響力が及んでいた。その王朝の建国後の対外的な動きについて、王朝の名称を挙げながら、2行以内で記せ。

問(3) ユーラシア大国としてのロシアは、シベリアという広大な領域の支配により成立したといえる。シベリアの毛皮や木材、そして豊富な地下資源は、歴史的にロシアに大きな経済的利益をもたらしてきた。このことに関する以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えよ。

(a) 16世紀のロシアのシベリア進出について、2行以内で記せ。

(b) 1890年代のロシアのシベリア開発に関して、この時期に起こった事柄とその背景、さらにその影響について、対外関係も踏まえて、4行以内で記せ。

### 第 3 問

世界史探究の授業において、3つの班が世界史における女性と男性のあり方について調べ、パネルを作って発表した。このことに関連する以下の設問(1)~(10)に答えよ。解答は、解答欄(ハ)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(10)の番号を付して記せ。

1班は、近代イスラーム社会における女性のあり方に関心を持ち、オスマン帝国の女性雑誌について調べたことをパネル1にまとめた。

#### パネル 1

オスマン帝国では、女性の編集者によるトルコ語の女性雑誌が1880年代に登場した。これらの雑誌には、家政、衛生、教育、文学、ファッションなど多様な記事が掲載された。その後、憲法の下で出版の自由が保障されたことを背景として、<sup>㉔</sup>1910年代に女性雑誌が多数刊行された。なかでも『女性の世界』誌は、ムスリム女性の地位の向上、教育の拡大、社会進出などを訴え、また、女性の参政権について論じた。<sup>㉕</sup>オスマン帝国における女性のこうした活動は、世界各地に波及した第1波  の一環であり、その第2波は、1960年代後半から70年代に高揚した。<sup>㉖</sup>

問(1) 下線部㉔の状況をもたらした、オスマン帝国における政治的事件の名称を記せ。

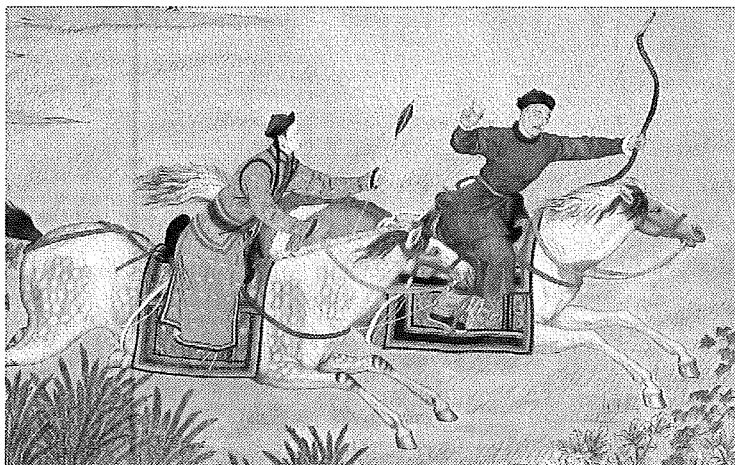
問(2) 下線部㉕に関連して、第一次世界大戦後のドイツでは、男女平等の普通選挙権を明記した憲法が成立した。この憲法の名称を記せ。

問(3) 下線部㉖の時期の  の運動に影響を与えた、アメリカ合衆国における黒人差別撤廃運動の名称を記せ。

2班は、中国における女性と男性のありように関心を持ち、清代についての資料を探して、パネル2にまとめた。

## パネル2

I



II



- ・ Iは清の皇帝が狩猟をしている様子を描いた絵画である。左側に描かれている女性は、動きやすいズボンをはき、馬に乗っている。これは、清を建国した  の社会に見られる習俗だった。
- ・ IIに見える女性は、纏足と呼ばれる、人為的に足を小さくする風習をしている。これは、清の支配以前から  の上流層で行われた習慣で、科挙<sup>①</sup>に合格して官僚を出した地主など富裕層の家庭に多く見られた。
- ・ 近代になると、IIに見られる風習や、 の男性に対して強制された辮髪<sup>②</sup>は廃止されていった。しかし、身体に関わる規範からの解放を強制することもまた、苦痛を強いることになった。

問(4) パネル 2 中の空欄  ・  に入る語句の組合せとして正しいものを、次のア～エのうちから 1 つ選び、その記号を記せ。

- ア B—漢人 C—満洲人
- イ B—漢人 C—両班
- ウ B—満洲人 C—漢人
- エ B—満洲人 C—両班

問(5) 下線部㉑に関連して、試験で官僚を選抜する科挙制度は清と同時期のヨーロッパで注目を集め、啓蒙専制君主と交遊して影響を与えた思想家も、これを高く評価した。この思想家の名前を記せ。

問(6) 下線部㉒に関連して、辮髪姿の男性は中国人の表象とされ、19 世紀から 20 世紀前半にかけて、欧米の風刺画でさかんに描かれた。その背景には、この時期に中国人労働者が世界各地に数多く流入したということがある。その事情について調べるための資料として適当でないものを、次のア～エのうちから 1 つ選び、その記号を記せ。

- ア 世界恐慌の前後における主要国の工業生産指数の推移を示したグラフ
- イ イギリスとフランスにおける奴隷制の廃止に至る過程を記した年表
- ウ 第 2 次アヘン戦争(アロー戦争)後に結ばれた北京条約の内容
- エ 蒸気船・蒸気鉄道による輸送力の増加を示した統計

3班は、女性の社会的な地位や役割の変遷について関心を持ち、調べたことをパネル3にまとめた。

### パネル3

次の資料は、前7世紀後半にレスボス島に生まれ、古代ギリシアの叙情詩人として名高い女性が歌った詩である。

やさしい母さま、  
ほんにわたしゃ、もう機<sup>はた</sup>を織る  
気も出ませぬえ、  
すらりとした殿御<sup>とのご</sup>をいとと  
おもうこころの切なさに。

(呉茂一訳，表記一部改変)

- ・この詩は、未婚の女性が若い男性に恋い焦がれる様子を描いたものであるが、本来であれば彼女は母とともに家事労働を期待される存在であったことも示している。
- ・前近代における一般の女性たちは、このように家庭内での役割のみを求められ、政治に参加する権利を認められないことが多かった。世界史には権力の座<sup>①</sup>についた女性も現れたが、その多くは、家系や結婚などによる地位の獲得や向上が前提となっていた。
- ・近代に入ると、男性優位の役割分担<sup>②</sup>がむしろ強まったが、20世紀になると、社会に出て働く女性も多くなり、それが女性の社会的・政治的地位向上に結びついていった。

問(7) パネル3中の詩の作者の名前を記せ。

問(8) 下線部①に関連して、中国史上で唯一、女性で皇帝となった人物の名前を記せ。

問(9) 下線部㉔の傾向は、近代欧米社会において、法で規定されることによって強化・固定化された側面があった。フランスで定められた、近代市民社会の原則をまとめた民法典の名称を記せ。

問(10) 下線部㉕のきっかけの一つは、戦争が、軍隊だけでなく国力の全てを動員する形態をとるようになったことにある。このような戦争の形態の名称を記せ。